天拝山って？

天拝山頂上にある「天拝山」

案内看板

天拝山は、古くは天判山と呼ばれていました。菅公（菅原道真）が太宰府に左遷されたのち、無実の罪をはらすために山頂に立って天を拝んだという伝説から、いつしか天拝山と呼ばれるようになりました。

室町時代末期（約 400 年前）までは全山が芒におおわれていましたが、黒田長政の家臣小河内蔵尤（原田宿の初代代官）によって盛んに植樹が奨励され、緑豊かな山になったということです。

標高 258m の山頂には菅公を祭る天拝神社（菅原神社）があり、その前の「おつま立ちの岩」は、菅公が立った岩として信仰をあつめています。かつて、この岩のそばに「天拝の松」と呼ばれる大きな松があり、はるか博多湾を往来する船乗りたちの自じるし として親しまれていました。しかし、昭和初年の大暴風雨で倒れ、今ではもうその姿を 見ることはできません。

中腹には荒穂神社や行者の滝などか、確には武蔵寺・二日市温泉があります。

筑紫野市